

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600127		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム島田 (1F・2F合同)		
所在地	八千代市島田40-32		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成25年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのふれあいを大切にしながら家庭的で笑顔のあふれる場所にしましょう。という理念をモットーに日常生活を通して入居者とスタッフ一丸となりがんばっています。
医療法人の利点を活かし、医師や看護師との連携を密に行え、適切な医療を提供しています。
法人内にはいろいろな施設があり、その人その人にあったサービスをご紹介できる体制があります。職員も法人内の異動等で経験をつみ幅広い対応を身につけることができ、たくさんの高齢者介護を経験できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・郊外の閑静な住宅街にあり、広々とした手作り庭園などで利用者が心地よく過ごしています。
- ・利用者の日常活動が良く分かる方法として、行事や日常の利用者の活動や表情を記録した連続デジタル写真を、写真の自動切り替え装置を使用して、廊下に設置したデジタルフォトフレームやテレビで、画面に映し出して流しており、利用者や面会に来た家族が楽しんでいます。
- ・介護キャリアアップ段位制度で使われる基礎介護技術チェック項目をトイレや風呂場などに利用者に配慮して掲示し、必要な都度、職員自ら利用者サービスのチェックを行い、サービスの向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1F)	外部評価 (1Fおよび2F全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にしながら家庭的で笑顔のあふれる場所にしましょう。という理念をモットーに日常生活を通して入居者とスタッフ一丸となり実践しようとしている。	理念を出入り口ホールに掲示し、職員には会議で説明して周知徹底しています。事業所の方向性は皆が安心して暮らせるように利用者、家族にあらゆる面で信頼される施設でありたいということで、実現に向け努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者と共に散歩に出かけた時の挨拶をするなど日々の活動の中でホームを知って頂いたり、行事に地域ボランティアの方をお招きして催し物を行ったりしています。	地域住民が事業所の存在を認め、気楽に事業所内駐車場を使った往来をしており、職員、利用者との挨拶や会話を交わしています。地域の祭りでは地域住民との交流の機会があります。地域のボランティアが時々コーラスを披露に来てくれます。自治会長にホームへの理解があるので、何かとやりやすくなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これから町内の行事に参加し、認知症への理解や支援をして頂けるようつとめていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの利用者やサービスの実際、取り組みについて説明し、理解して頂けるよう努めていきたい	運営推進会議は2カ月に1回行っており、自治会長、家族代表以下6～7名で、状況報告、防災、地域の状況等あらゆる話題を取り上げて行っています。来年度から介護相談員も参加する予定になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は電話やFAXで行っています。市役所の適切なアドバイスをいただきケアの向上に努めています。入退居の情報や現状について連絡を取り合っています。	介護相談員2名が2カ月に1回来訪し利用者と面談して意見を聞いて、施設長と意見交換を行っています。市担当者には必要な都度報告、相談をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等参加し、施設でも一人ひとりの身体拘束をしない工夫について職員間で話し合っています。	内部学習会や法人グループ全体会議等で研修を受けています。身体拘束排除についてパンフレットに掲載し、玄関に掲示しています。玄関のカギは日中も締めていますが、理解できる利用者は自分で開けられるようにしてあり、チャイムで職員に伝わるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に全職員が利用者の尊厳を守るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fおよび2F全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には関係者と連携が取れるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、申し込みの際には実際に見学をしていただくなど、時間をとって説明し理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、入居者やご家族の意見、不満、苦情に対して常に耳を傾けるよう努めています。伺ったご意見等については、担当者や会議で話し合い改善に取り組んでいます。	利用者については日頃のケアの中で意見を聞いている他、介護相談員が2カ月に1回来訪して話を聞いてくれています。家族については、月1回平均で来所する家族の面会時や運営推進会議で意見・要望を聞いています。なお、意見箱を玄関出入り口に設置しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日々の業務活動の中や職員会議等で意見交換し管理者会議等で話し合い、運営に反映しています。	職員会議は月1回行われ、ヒヤリハット報告等の事例検討を行い対応策を話し合っています。職員の個人面談は年1回行われ、職員の意見や要望を聞き、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の報告を受け勤務状況を把握し、給与や労働時間等、働きやすい職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当を決めて学習会を行っています。そのほかにも法人内外の研修がある場合は参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設合同で話し合いを行ったり勉強の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fおよび2F全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学時に家族と一緒に来訪してもらい、入居者と一緒にお茶の時間に参加していただいたり、話を聴く機会を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や直接来所された際には、困っていらっしゃる、不安なこと、要望等を伺い思いを受け止められるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら、生活面、健康面、経済面等を把握し、他の選択肢も含めた対応に努め、必要があれば、他のサービスを利用できるように、他の施設の相談員とも連携が取れるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に、食事の下ごしらえや片付け、洗濯物をたたんだり掃除するなど、入居者の生活歴になじんできたことを生かし「一方的な介護ではなく、できない事をお手伝いする、入居者主体のケア」を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望する場合は、電話や手紙による交流を支援したり、面会を要請したりしています。可能な場合は行事に参加してもらい、一緒に楽しんでもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状、電話等で連絡が取れるように努めています。	利用者にかかってきた電話連絡を取り次いだり、知人・友人に手紙を書いたり、編み物の本が欲しいと買いに行ったり、墓参りに出かける等ができるよう支援し、今までの生活が継続できるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、楽しく参加できるレクをおこなったりユニットで区切らず自由に交流を持てるようにしたり、食事の席などを考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (1F)	外部評価 (1Fおよび2F全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙などでの交流や退居先の施設に面会に行ったり、必要に応じて家族と連絡をとる場合があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接希望を伺ったり、日ごろの会話の中で意識して意向を引き出せる言葉かけをするよう努めています。困難な方には言動や生活歴から思いを読み取り、職員間で検討し入居者本位のケアに努めています。	将棋を指しに1、2階を行き来する利用者が居るなど日々の関わりの中で、言葉や表情などからそれとなく確認し、その真意を推し測ったり、意思疎通の困難な利用者には生活歴など家族から情報を得るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が今までどのように過ごされてきたかを聞き取り、日ごろから趣味や意向を汲み取れるよう努めています。スタッフ間で共有できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の言動や行動で、状態を把握するよう努めています。本人の今できる力、環境のバランスを考え、できるだけ活動して頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、スタッフや家族等関係者と相談し、状態の把握に努めています。ケースカンファレンスにて対応を話し合い、介護計画に反映しています。	本人・家族の要望を取り入れつつ、6か月ごと介護計画期間が終了する前に見直しをしています。本人の状態変化があるケースの場合は都度職員・家族・関係者と意見交換をしながらプランの作成に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はその日の個々の様子をケース記録に記録し職員間で情報共有をし介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診、週1回の訪問看護など協力医療機関等を活かして支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）		外部評価（1Fおよび2F全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力しながら支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的訪問や受診、必要な場合は協力医療機関との連携を常に支援しています。	担当医の定期受診は月2回実施しており、必要時は協力医療機関へ情報提供し連携して適切な医療を受けられるよう支援をしています。その他の病院受診は家族が付き添うことになっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連絡を取り、週1回の訪問を受けるとともに、日常で捉えた本人の変化や病状を記録、報告、相談するなどしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と十分に話し合い見舞いに行くなど安心して療養できるよう声かけしたりしています。入院中の状況を把握するため医師や相談員と情報交換を密にし退院後も適切な対応ができるよう努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族に予め対応や方針をお聞きしています。そして病状の変化があるときは、その都度説明し家族のご意向に沿うように対応をしています。家族との話し合いで、ターミナルケアも受け入れています。	医療法人としてのメリットを活かし不安なことがあれば電話・FAXでいつでも相談にのってもらえることや、急変時にも医師・看護師と連携できる体制が整っており、契約時に重度化や終末期の在り方・看取り・延命処置等の同意書をかわし家族・本人の意向に添うよう対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携できるような体制をとっています。また職員においては研修や学習会等で対応を学び、慌てず対応できるようにしています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、指示のもとに定期的に訓練を実施している。	年2回、消防署に報告する消防訓練と自主訓練を実施しています。スプリンクラー、煙探知器、火災報知器、消火器、AED器、自動通報装置が設置されています。他のグループホームでの火災事件を受けて消防署の立ち会い検査を受けています。	運営推進会議で防災について話し合っていますが、地域住民との連携体制が不十分なので、消防署や自治会長等の力を借りて合同訓練の実施など地域との協力関係を築くことが求められます。	

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fおよび2F全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重し、言葉掛けや態度等適切な対応に努めています。	キャリアアップ制度の資料を基に毎年学習会で理解を深めています。日常の言葉遣い等、職員はプライバシーを尊重して適切な対応をしています。日々の関わりの中でその場で注意することもあるということです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わっている職員が、日ごろからご本人の意向に耳を傾け、それが実現できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の言葉に耳を傾け、趣味や嗜好等の把握に努め楽しみを持ちながらくつろいだ居心地の良い生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが楽しくなるようにお化粧品を行ったり、身だしなみに対して職員は気にかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、お粥や刻み食などにも対応しています。職員と一緒に下ごしらえや片付けを行ってもらっています。	1階・2階に調理の得意な利用者がいて、個々の力を活かしながら職員と一緒に下ごしらえや片づけを行っていました。食事の間は利用者と職員が同じものを一緒に食べて楽しい時間を過ごしていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のほかにお茶の時間を設けたり、食事や水分の摂取で変化のある方については、摂取量を記録し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて協力しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fおよび2F全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせてできる限りトイレでの排泄を支援しています。排泄パターンの把握に努めています。	排泄チェック表で確認しながら、リハビリパンツをはいている利用者や尿意の無い利用者等それぞれの排泄パターンに応じて声掛けし、トイレでの排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や運動を促したり、食事を配慮しています。必要な場合は医師や看護師に相談しています。排便の有無をチェックし、状態の把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3人程度、介助の必要な状態や本人の希望に応じて入浴して頂いています。入浴剤などを入れ気分転換を図るなど工夫しています。	基本は週2回の入浴ですが、汗をかいた時はシャワー浴をする利用者もあり、希望があれば毎日入浴出来ます。入浴を拒む利用者には、言葉かけや時間をづらす等対応に工夫をして入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を把握し、本人のペースを尊重し場合によっては疲れたら横になるなど、安心して安眠や休息ができるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとひとりの病歴を把握し、処方箋をファイリングし内容の理解ができるようにしています。誤薬等ないように配薬前には2人で確認。内服時には、内服を確認するまで離れないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴、趣味、能力が活かせるよう、活動の場で役割を持っていただき、散歩ドライブ等で気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、散歩や買い物、美容室に出かけたり、家族とお墓参り等に行かれたりしています。	利用者の中には毎日散歩に出かける人もあります。庭園を思わせる庭には椅子、テーブルが用意されており、その日の気分や希望に応じて体を動かし、気分転換を図るなど日々の暮らしに活かせるよう工夫しています。	利用者アンケートにリハビリを取り入れて欲しいとの要望があります。施設の中だけで過ごさず、短時間でも戸外に出る機会を作ると共に、職員も含めてストレスの発散、心身の活性につながるよう更なる工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価 (1F)	外部評価 (1Fおよび2F全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理の能力を見極め、家族と相談し状況に合わせて、買い物をしてお金を使う喜びを感じてもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂にいつでもかけられる電話があり、職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃と換気を行い、清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけています。玄関や食堂等には季節感のある掲示物やお花を飾り工夫しています。	リビングは日当たりもよく、明るく、清潔で、ゆったりして、利用者が居心地よく過ごせるようになっています。広々とした手作り庭園にリビングから自由に出入り出来、利用者が日向ぼっこをしています。行事や日常の利用者の活動や表情を記録した連続デジタル写真をデジタルフォトフレームやテレビで、画面に映し出して楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の席に配慮しています。他の入居者の部屋へ遊びにいけるような雰囲気をつくっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、なじみのある家具や思い入れのある品を居室に置き、安心して落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	居室には、クローゼット、洗面台、エアコンが備わっています。利用者は、馴染みの物を持ち込み、自分の家のように居心地よく過ごしています。職員が行事の時のスナップ写真を壁に貼り、利用者・家族から喜ばれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力をよく把握し、自立した生活ができるように見守り、混乱や失敗しないようわかりやすく安全に配慮しながらお手伝いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にしなが家庭的で笑顔のあふれる場所にしましょう。という理念をモットーに日常生活を通して入居者とスタッフ一丸となり実践しようとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に散歩に出かけたりするなど日々の活動の他行事に地域ボランティアの方をお招きして催し物を行ったりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これから町内の行事に参加し、認知症への理解や支援をして頂けるようつとめていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの利用者やサービスの実際、取り組みについて説明し、理解して頂けるよう努めていきたい		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は電話やFAXで行っています。市役所の適切なアドバイスをいただきケアの向上に努めています。入退居の情報や現状について連絡を取り合っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等参加し、施設でも一人ひとりの身体拘束をしない工夫について職員間で話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会にて学ぶ機会をもうけ、常に全職員が利用者の尊厳を守るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には関係者と連携が取れるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、申し込みの際には実際に見学をしていただくなど、時間をとって説明し理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、入居者やご家族の意見、不満、苦情に対して常に耳を傾けるよう努めています。伺ったご意見等については、担当者や会議で話し合い改善に取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日々の業務活動の中や職員会議等で意見交換し管理者会議等で話し合い、運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の報告を受け勤務状況を把握し、給与や労働時間等、働きやすい職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当を決めて学習会を行っています。そのほかにも法人内外の研修がある場合は参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設合同で話し合いを行ったり勉強の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学時に家族と一緒に来訪してもらい、入居者と一緒にお茶の時間に参加していただいたり、話を聴く機会を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や直接来所された際には、困っていらっしゃること、不安なこと、要望等を伺い思いを受け止められるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら、生活面、健康面、経済面等を把握し、他の選択肢も含めた対応に努め、必要があれば、他のサービスを利用できるように、他の施設の相談員とも連携が取れるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に、食事の下ごしらえや片付け、洗濯物をたたんだり掃除するなど、入居者の生活歴になじんできたことを生かし「一方的な介護ではなく、できない事をお手伝いする、入居者主体のケア」を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望する場合は、電話や手紙による交流を支援したり、面会を要請したりしています。可能な場合は行事に参加してもらい、一緒に楽しんでもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状、電話等で連絡が取れるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、楽しく参加できるレクをおこなったりユニットで区切らず自由に交流を持てるようにしたり、食事の席などを考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙などでの交流や退居先の施設に面会に行ったり、必要に応じて家族と連絡をとる場合があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接希望を伺ったり、日ごろの会話の中で意識して意向を引き出せる言葉かけをするよう努めています。困難な方には言動や生活歴から思いを読み取り、職員間で検討し入居者本位のケアに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が今までどのように過ごされてきたかを聞き取り、日ごろから趣味や意向を汲み取れるよう努めています。スタッフ間で共有できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の言動や行動で、状態を把握するよう努めています。本人の今できる力、環境のバランスを考え、できるだけ活動して頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、スタッフや家族等関係者と相談し、状態の把握に努めています。ケースカンファレンスにて対応を話し合い、介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はその日の個々の様子をケース記録に記録し職員間で情報共有をし介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診、週1回の訪問看護など協力医療機関等を活かして支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的訪問や受診、必要な場合は協力医療機関との連携を常に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連絡を取り、週1回の訪問を受けるとともに、日常で捉えた本人の変化や病状を記録、報告、相談するなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と十分に話し合い見舞いに行くなど安心して療養できるよう声かけしたりしています。入院中の状況を把握するため医師や相談員と情報交換を密にし退院後も適切な対応ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族に予め対応や方針をお聞きしています。そして病状の変化があるときは、その都度説明し家族のご意向に沿うように対応をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携できるような体制をとっています。また職員においては研修や学習会等で対応を学び、慌てず対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、指示のもとに定期的に訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重し、言葉掛けや態度等適切な対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わっている職員が、日ごろからご本人の意向に耳を傾け、それが実現できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の言葉に耳を傾け、趣味や嗜好等の把握に努め楽しみを持ちながらくつろいだ居心地の良い生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが楽しくなるようにお化粧品を行ったり、身だしなみに対して職員は気にかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、お粥や刻み食などにも対応しています。職員と一緒に下ごしらえや片付けを行ってもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のほかにお茶の時間を設けたり、食事や水分の摂取で変化のある方については、摂取量を記録し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに歯磨きの声かけをし、必要に応じて介助しています		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせてできる限りトイレでの排泄を支援しています。排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や運動を促したり、食事を配慮しています。必要な場合は医師や看護師に相談しています。排便の有無をチェックし、状態の把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3人程度、介助の必要な状態や本人の希望に応じて入浴して頂いています。入浴剤などを入れ気分転換を図るなど工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を把握し、本人のペースを尊重し場合によっては疲れたら横になるなど、安心して安眠や休息ができるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの病歴を把握し、処方箋をファイリングし内容の理解ができるようにしています。誤薬等ないよう配薬前には2人で確認。内服時には、内服を確認するまで離れないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴、趣味、能力を活かせるよう、活動の場で役割を持っていただき、散歩ドライブ等で気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて、散歩や買い物、美容室に出かけたり、家族とお墓参り等に行かれたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理の能力を見極め、家族と相談し状況に合わせて、買い物をしてお金を使う喜びを感じてもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂にいつでもかけられる電話があり、職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃と換気を行い、清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけています。玄関や食堂等には季節感のある掲示物やお花を飾り工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の席に配慮しています。他の入居者の部屋へ遊びにいけるような雰囲気をつくっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、なじみのある家具や思い出のある品を居室に置き、安心して落ち着いて過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力をよく把握し、自立した生活ができるように見守り、混乱や失敗しないようわかりやすく安全に配慮しながらお手伝いしています。		